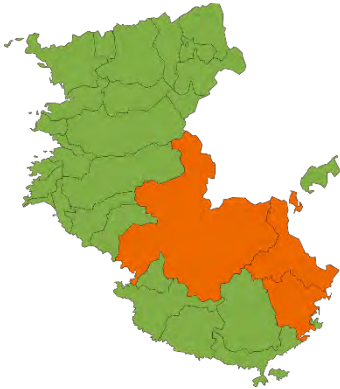


和歌山県新宮市、田辺市本宮町、東牟婁郡那智勝浦町

世界遺産登録 20 周年イベント

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を学び、 熊野を盛り上げよう。



【活動の基本情報】

参加学生数：13名

(1年生：8名、2年生：4名、4年生：1名)

活動期間：2023年6月～

担当教員：佐野楓

1. 活動実施の経緯

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録 20 周年を 2024 年に迎えるにあたり、世界遺産に対する理解を深めるとともに、地域事業者との交流等を通じて地域課題を理解し、20 周年を盛り上げる事業を立案する。

2. 活動の内容

事前学習では熊野地域の知識や課題を学んだ。現地学習では全体で世界遺産について講和等で詳しく学び、現地体験及び観光事業者との交流等を行った。事業の案出しを行った。現在の事後学習では現地学習の内容をブラッシュアップし成果物として残すことや、PR ツールの作成を行っている。

3. 活動を通じて

現地実習においては、新宮・本宮・那智勝浦の3つの地域に分かれ活動した。共に熊野古道の世界遺産 20 周年イベントを盛り上げる、京都産業大学と熊野観光協会の方々との顔合わせも兼ねての取り組みであった。活動の中で、熊野三山の土地についての見解を深めることができた。また、地域の方から熊野古道に対する思いも、取材を通して知ることができた。特に印象的だったのは、熊野古道を地元住民が日常的に散歩コース等として利用していることだ。住民たちからも、かけがえのない存在として愛されていることが読み取れた。また、最終報告会に向けての準備を進めるにあたり、印象的だったのは、現地実習に参加した者と参加できなかった者との視点の差だ。現地実習に参加した者は、自身が体験したことを元に「現地実習では、ガイドさんが〇〇が有名だと言っていたから組み込もう」といったような、熊野を巡り歩いた経験から出た意見が多く出ていた。しかし、参加しなかった者は上記の意見とは違い「このお店は以前テレビにも出ていたから取り込んだ方が良さ」といった、行った者が忘れがちになる視点から切り込んでくれることが多くあった。これは、ある意味熊野に対しての印象がまっさらであるからこそ得られた意見だと感じた。この意見は、全体の考えが行き詰まった際、新鮮な視点を得るきっかけにもなった。

4. 成果ポスター

熊野三山LPP

メンバー 中村 華奈子・佐々木 そら・佐藤 静香・大木場 柊哉・新田 きらり・竹田 夢彩・林 華音
・青木 太誠・藤井 里美奈・高原 優那・西田 かのん・飯島 颯大・藤井 里美奈・森本 千穂

熊野三山LPPってなに？

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年を2024年に迎えるにあたり、若年層の世界遺産に対する理解を深めるとともに、地域事業者との交流等を通じて地域課題を理解し、20周年を盛り上げる事業を立案する。

事前学習では熊野地域の知識や課題を学び、“どの街で何に着目して学習するのか”現地学習の目的を定めると共に班分けを行う。

現地学習では全体で世界遺産について講和等で詳しく学び、他大学を交えた各班で現地体験及び観光事業者との交流等を行う。最終日には現地での学びや地域活性化に寄与する内容をまとめ発表する。その後、世界遺産20周年の事業の案出しを行う。事後学習では現地学習の内容をブラッシュアップし成果物として残すことや、来年度事業のPRツールの作成を行う。

現地研修の内容(新宮市アケテビティ班)

01日目(9/5)

- ・熊野那智本宮大社
- ・熊野本宮大社周辺

02日目(9/6)

- ・新宮曼荼羅絵解き
- ・世界遺産三社巡り

(ガイドさんと同行していただきました)

熊野川舟下り、熊野川温泉さつき

03日目(9/10)

- ・高野坂と三輪崎散策

(ガイドさんと同行していただきました)

- ・レンタサイクルで新宮市散策(浮島の森など)
- ・葉の木の滝

04日目(9/11)

- ・課題ブラッシュアップ



2班の企画内容

デザイン案

交通安全

身体健康

字彙知識

心機一致

結び

高画

ポスターデザインについて

各メンバーが各自の得意分野に合わせたデザインを制作し、互いに学びあう。また、制作過程を共有し、互いに学びあう。制作過程を共有し、互いに学びあう。

熊野三山20周年記念賽銭メダル

コンセプト

熊野三山20周年記念賽銭メダル。各メンバーが各自の得意分野に合わせたデザインを制作し、互いに学びあう。また、制作過程を共有し、互いに学びあう。

コンセプト

熊野三山20周年記念賽銭メダル。各メンバーが各自の得意分野に合わせたデザインを制作し、互いに学びあう。また、制作過程を共有し、互いに学びあう。

今後の展望

- ①企画の実施・運営
 - オリジナルマップ作成のため熊野に対する知識を深めていく。新メンバーやリーダーの交代などに備え、引き継ぎ事項をまとめたり共有したりしておく。
- ②他団体との連携強化を図る
 - 京都産業大学・熊野観光協会の2つの団体と連携した取り組みがあるため、互いの情報共有が不可欠である。オンライン会議やこまめな連絡を取ることで足並みを揃え、円滑な運営を行っていく。

1班の企画内容

まち歩きデジタルスタンプラリー

コンセプト

熊野地域の魅力を伝える。この熊野三山は山岳信仰の中心地であり、その歴史や文化を伝える。熊野三山は山岳信仰の中心地であり、その歴史や文化を伝える。

課題解決に向けた取り組み

熊野地域の「まち歩き」を楽しく、そして有意義にする。熊野地域の「まち歩き」を楽しく、そして有意義にする。

今後の活動

熊野地域の「まち歩き」を楽しく、そして有意義にする。熊野地域の「まち歩き」を楽しく、そして有意義にする。



2023 年度 LPP 合同活動報告会 実施報告

和歌山県新宮市、田辺市本宮町、那智勝浦町

テーマ：世界遺産登録 20 周年イベント

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」を学び、熊野を盛り上げよう。

報告では、私たちの一年の活動内容についてと、実際にどのようなイベント案が出たのかについて話しました。一年の活動内容については、事前研修で熊野三山などの地域について勉強し、どのような方向性でイベントを行っていくのかを考えました。夏季休業中に行われた実地研修では、京都産業大学の学生とともに新宮市、本宮町、那智勝浦町に行き熊野三山観光協会様のご協力の元、地域の方との交流やヒアリングを通して事前に考えたイベント案と地域の方の声などのすり合わせ、ブラッシュアップを行いました。これらでできた大枠を12月に行われた最終発表会に向けて企画を考えました。最終的に「デジタルスタンプラリー」の案が通りましたので来年度のイベントに向けて準備を重ねていきます。自分たちの一年間の活動を言語化するのはとても良いアウトプットとなりました。LPPのメンバー一同さらに来年度へのモチベーションアップにもつながったと考えています。

